

授業科目名： 保育内容の指導法 （言葉）	教員免許取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	しまだ まさる 担当教員名：嶋田 優 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	小学校教諭、指導主事として勤務経験を持つ教員が、幼保連携の視点と幼稚園、学校現場の実情から、そこに求められる意欲、姿勢等を指導する。		
科 目	領域および保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報通信技術及び教材の活用を含む）		
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと			
授業の到達目標及びテーマ： 幼児の発達に即した、主体的・対話的で深い学びの追求 幼児一人一人が経験・体験したことから、気づいたり感じたりしたことを、他の人に自分なりの言葉で表現し、相手から返された言葉にもしっかりと耳を傾ける姿勢や態度を身につけ、獲得した豊かな言葉を使って、幼児が和やかに話し合いの場が持てるように支援することができる。			
授業の概要： 目標を達成するためには、どのような指導計画のもとに、どのような活動計画を工夫し実践していけば、幼児が「やりたい！」という意欲を持って相手との話し合いを積極的に行うことができるのか。領域「言葉」のねらいと幼児の発達段階をふまえた年間保育活動計画に沿って実践に即した授業を進めていく。			

授業計画

- 第1回：幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらいと内容
第2回：ことばの発達過程について：3歳～5歳にかけて
第3回：教室環境の構成とことば・文字遊び活動
第4回：文字の獲得とことばによる伝え合いの広がり
第5回：情報機器の活用とことば・文字遊びの事例紹介
第6回：読む力とことば・文字遊び活動の繋がり
第7回：ことば・文字遊びと対話力
第8回：指導計画と活動目標・活動計画のあり方
第9回：ことば・文字遊びの学年ごとの活動目標
第10回：年間保育活動計画を作成する上での留意点
第11回：他領域の年間保育活動計画案の事例紹介
第12回：年間保育活動計画案の事例についての話し合い
第13回：年間保育活動計画案の振り返りと評価・改善
第14回：ことば・文字の獲得と創意活動への意欲
第15回：卒園までに身につけたい領域「言葉」の内容と小学校への繋がり

定期試験

スクーリングでの学修内容

- ・幼稚園教育の基本と領域「言葉」について学修する（第1回～第2回）
- ・言葉や文字の獲得と環境構成について学修する（第3回～第7回）
- ・指導計画、及び年間保育活動計画の立案について学修する（第8回～第9回）
- ・活動計画案の考察と評価と改善について学修する（第10回～第14回）
- ・幼小の円滑な接続について学修する（第15回）

教科書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月

参考文献

- (1) 監修 無藤 隆「幼稚園教育要領ハンドブック」Gakken 2017年
(2) 編著 津金 美智子「新幼稚園教育要領ポイント総整理」東洋館出版社 2017年
(3) 監修 無藤 隆 新訂 事例で学ぶ保育内容
領域「言葉」 萌文書林 2018年

学生に対する評価

レポート評価（25％）、スクーリング評価（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。